

【I農場におけるアスパラガス露地栽培試験】

実証経過

産地：島根県大田市（全体面積3a）

圃場の特長： ■ 2016年9月にアスパラガスの栽培を開始したが、2年目以降、茎枯れ病により全滅

■ その後も補植を繰り返したが、2021年10月茎枯れ病が再発した

■ 自然な状態で繁茂させており真夏の暑い時期においても活発に生育している

■ ビニールハウスも2棟で栽培実施

GE・ビガー®散布時期：2021年12月20日

① 土づくりの際に地表面散布

② 立茎の直前に地表面散布

収穫時期：2022年4月～10月

露地全景 2022.9.15撮影



経過観察

露地栽培外観1 2022.4.28撮影



露地栽培外観2 2022.4.28撮影



立茎を開始し順調に立ち上がっている
生育状況は良好である

露地栽培近景 2022.7.30撮影



露地栽培全景 2022.7.30撮影



現在、GE・ビガー®を全面に施して新規
に露地栽培を開始している。自然な状
態で繁茂させており真夏の暑い時期
においても活発に生育している。細い茎
で立茎をしているが太いアスパラガス
が成育している



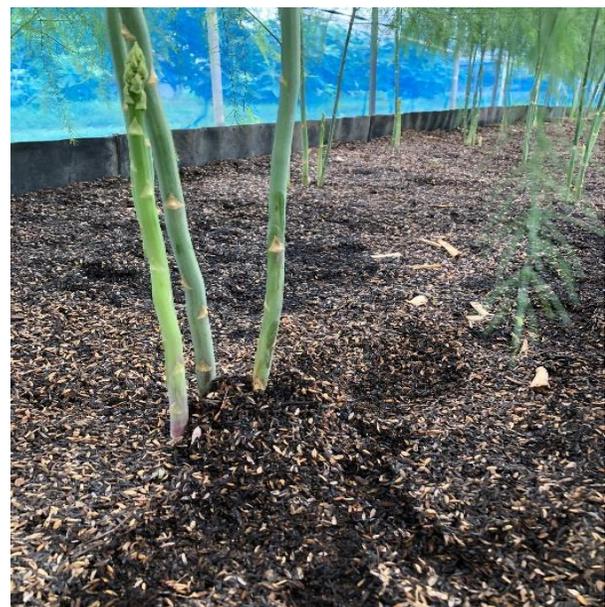
新たな芽の発芽状態は、手触りの感触
や成長度は良好で出荷可能な状況にあ
る。また、茎枯れ病の影響はほとんど
なく問題は発生していない。葉先の状
態はしっかりした勢いを感じる状況に
ある



GE・ビガー®を露地全面に散布

← 2022.7.30撮影

- ・ GE・ビガー®を2か月に1回散布している
- ・ 葉の色・茎の色が鮮やかな黄緑色となっている
- ・ 葉の勢いがあり上向き傾向にある



← 2022.7.30撮影

- ・ 排水性の良い機能を持つ土づくりとなり、堆肥は全体に均等に6t投入されている。もみ殻の燻炭をたっぷり投入している
- ・ 通年、露地栽培においては茎枯れ病が発生したが、栽培試験開始後は発生していない
- ・ また、今年はアブラムシの発生が少ない状況にある（影響等経過観察の必要がある）
- ・ 給水は適宜行われ、給水するほど新芽が出てきている



↑ 2022.8.9撮影

バランスの良い発芽となっており、細い立茎にも拘らず太いアスパラガスとなっている。（太い立茎にすると太くなりすぎる傾向がある）

【アスパラガスの露地栽培 散布/無散布 比較試験 (I農場) 【総括】

実証場所：島根県大田市
実証期間：2021年12月20日～2022年8月9日（230日間）
実施内容：アスパラガスによるGE・ビガー®の効果確認
実施者：株式会社地球環境EDジャパン

■栽培条件

- ・土壌改良材GE・ビガー®を散布したものと無散布のものとの比較する
- ・GE・ビガー®散布2畝のみとし無散布との比較を行う

2022.8.9撮影 →

■栽培方法

- ・肥料は堆肥及びもみ殻燻炭

収穫されたアスパラガスは、根元が太く瑞々しい状態であり先端が開いていない



↑立茎(左端)は細いが勢いの良い葉の光合成により貯蔵根に養分が蓄えられ、これにより太い茎の新芽が萌芽し生長する(手前の切株はそれを示している)

■生産者様の総括

- 2021年12月末、同圃場でGE・ビガー®による防除の可能性を確認するため掘り起こし、使える根を左から2列だけ定植し経過観察を行っている
(実質栽培試験開始)
- 散布方法は、地表面を整成しもみ殻燻炭等を施し、土づくりを行った後、タンクからホース等を用い地表面に散布する根張り幅を考慮して60cm幅に行き渡る様に100ccボトル1本を液肥散布タンクに混入して点滴灌溉散布を行う
また、これを2か月に1回液肥散布の際混入して追加している
- 2022年8月現在、茎枯れ病等の発生は認められない
- バランスの良い発芽となっており、細い立茎にも拘らず太いアスパラガスとなっている
(太い立茎にすると太くなりすぎる傾向がある)
- 収穫されたアスパラガスは、根元が太く瑞々しい状態であり先端が開いていない
- 排水性の良い土づくりとなり、露地栽培においては茎枯れ病が発生していたが、GE・ビガー®散布後は発生しておらず、また、アブラムシの発生が少ない状況にある